都市問題シリーズ第2弾！

『都市部・中央区における「ひったくり」対策について』質問しました。

私は、県議会一般質問にあたっては、都市問題を継続して取り上げています。
本年「2月県議会」では、『都市問題シリーズ：第1弾』として「自転車交通問題」を取り上げました。
そして、今「6月県議会」では、『都市問題シリーズ：第2弾』として
「都市部・中央区におけるひったくり問題」を取り上げました。

市民生活の安寧秩序を脅かす街頭犯罪である「ひったくり事件」の対策は、本県の重要な課題となっています。県として、県警を先頭に、各関係機関等と連携し、「ひったくり」犯罪の撲滅を進めていかなければなりません。

私は、「ひったくり」の犯罪抑制、犯罪防止、検挙率の向上に向け、以下のとおり質問を行いました。

右手は、菱川県警本部長

① 都市部・中央区における ひったくり対策について

（質問骨子）

安全で安心して暮らせるまちづくりのためには、地域防犯がとても大切です。とりわけ都心部で多発している街頭犯罪のうち「ひったくり」事件対策は急務です。

本県においては、新聞等マスコミの報道を見る限り、今年に入り、「ひったくり」事件を取り上げた報道が多くなっています。事例として、去る6月6月12日、午後10時半から11時過ぎにかけての、わずか30分間ほどに、中央区と博多区で「ひったくり」事件が6件も発生したとの報道がありました。

この6件のうち、中央区では、薬院1丁目、今泉1丁目という、この時間帯でも大変人通りも多く、街灯も明るい場所において、徒歩通行中の女性がバッグをひったくられる事件が2件、未遂事件が1件発生しています。

質問1 「ひったくり」事件のうち、特に発生件数の目立っている中央区の最近の発生件数について、昨年の同期と比較してどうなっているのか。

県警本部長の答弁 中央区については、本年1月～5月までに95件を認知しており、昨年同期と比較してプラス35件、58・3％の増加となっている。

質問2 最近の「ひったくり」事件の犯行の手口の特徴について。

県警本部長の答弁 徒歩又は自転車で通行中の被害者から、オートバイで追い越しざまにひったくる手口が約64％を占めている。また、被害の状況については、時間帯別では午後8時から午前0時までの間が約48％となっている。

質問3 被害者となられる方について、どのような方が狙われているのか。また、狙われやすいのか。

県警本部長の答弁 被害者の約94％は女性。そのうち、60歳以上が約30％と最も多く、次いで20歳代が約26％となっている。なお、被害品の携帯方法別では、徒歩で車道側に被害品を持った状態が約77％となっている。

質問4 発生件数に対しての検挙率はどうなっているのか。

県警本部長の答弁 過去3年間の検挙率は、平成21年：54・5％、平成22年：65・8％、平成23年：39・4％であり、本年5月末現在の検挙率は38・3％昨年同期と比較してマイナス1・4％となっている。なお、検挙した被疑者のうち、約半数は少年である。

質問5 発生抑止のための対策として、具体的にどのような取り組みが進められているのか。

県警本部長の答弁 警察官による警戒活動、街頭犯罪特別遊撃隊などの強化。また、特に中央区では、音声で注意を呼びかけるスピーカー22機に加え、28機まで増設します。

詳しい内容については
福岡県警ホームページ
防犯情報コーナー ▶ 犯罪ごとの対策 ▶ ひったくり対策
を参照ください。